

## 電気けいれん療法がもたらす認知的柔軟性の客観的変化

京都府立医科大学附属病院精神科・心療内科では、電気けいれん療法（ECT）を受けた患者さんを対象にどれくらい認知が柔軟になるかに関する臨床研究を実施しております。

実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

### 研究の目的

ECT開始前と終了後に認知の柔軟性を客観的に評価して比較することで、ECTによる認知の柔軟性への影響を明らかにすることを目的としています。ECTは認知を柔軟にする可能性があり、この影響が明らかになることで、より良い治療法を確立できると考えています。

### 研究の方法

#### ・対象となる方について

2020年11月01日から2025年10月31日までの間に、京都府立医科大学附属病院精神科・心療内科でECTを受けられた18歳以上の方

#### ・研究期間：医学倫理審査委員会承認後から2026年03月31日

#### ・方法

当院精神科・心療内科においてECTを受けられた方で、診療録（カルテ）より以下の情報を取得します。取得した情報の関連性を分析し、ECTによって認知がどれくらい柔軟になるか等について調べます。

#### ・研究に用いる情報について

ECT開始前と終了後の認知の柔軟性や精神症状に関するデータ、年齢、性別、病名等

#### ・個人情報の取り扱いについて

患者さんのカルテ情報をこの研究に使用する際は、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し研究用の番号を付けて取り扱います。患者さんと研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、インターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、入室が管理されており、第三者が立ち入ることができません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、患者さんが特定できる情報を使用することはありません。

なお、この研究で得られた情報は研究責任者（京都府立医科大学 精神医学教室 渡辺 杏里）の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

#### ・情報の保存および二次利用について

カルテから抽出した情報は原則としてこの研究のために使用し結果を発表したあとは、京都府立医科大学精神科・心療内科において助教・渡辺 杏里の下、10年間保存させていただいた後、研究用の番号等を削除し、廃棄します。

保存した情報を用いて将来新たな研究を行う際の貴重な試料や情報として、前述の保管期間を超えて保管し、新たな研究を行う際の貴重な情報として利用させていただきたいと思います。新たな研究を行う際にはあらためてその研究計画を医学倫理審査委員会で審査し承認を得ます。

### 研究組織

研究責任者

京都府立医科大学 精神医学教室 渡辺 杏里

研究代表（統括）者

京都府立医科大学 精神医学教室 渡辺 杏里

### お問い合わせ先

患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2025年12月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

京都府立医科大学大学院医学研究科 精神機能病態学

職・氏名 助教・渡辺 杏里 電話：075-251-5612

対応可能な時間帯：平日午前09時00分から午後05時00分まで